

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成24年9月13日(2012.9.13)

【公開番号】特開2010-96752(P2010-96752A)

【公開日】平成22年4月30日(2010.4.30)

【年通号数】公開・登録公報2010-017

【出願番号】特願2009-213703(P2009-213703)

【国際特許分類】

G 0 1 B 11/02 (2006.01)

G 0 1 B 11/08 (2006.01)

G 0 1 B 11/00 (2006.01)

G 0 1 C 7/04 (2006.01)

G 0 1 C 15/00 (2006.01)

【F I】

G 0 1 B 11/02 Z

G 0 1 B 11/08 Z

G 0 1 B 11/00 D

G 0 1 C 7/04

G 0 1 C 15/00 1 0 4 Z

【手続補正書】

【提出日】平成24年8月1日(2012.8.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 8】

なお、例えば、8回繰り返しても（最初に90度毎に4つの位置から探索したことを含めて、結果的に10度刻みに360度方向に探索したことになる）、所望の数の樹冠直径が検出されない場合、単木間の距離を用いて求める。樹木情報検出部34は、例えば、単木間距離の半分程度の距離の2倍を樹冠直径とする。樹木同士が密に存在していると考えられるので、隣接した複数の単木間距離の半分の平均の2倍を樹冠直径とすれば、合理的な値が得られる。検出した樹冠直径は、識別番号に対応づけてHDD28に記憶される。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 2 2】

次に、中心位置特定部41は、重ね合わせた連続距離データから、最小二乗法、ハフ変換などを用い、円にフィッティングさせ、中心位置、半径を特定する(S403)。

図24は、ステップS403の処理を模式的に示す図の一例である。重ね合わせた距離データをもとに、最小二乗法やハフ変換などを用い、円にフィッティングさせるので、円の中心位置や半径を精度よく求めることができる。以上の処理を繰り返し、樹木情報検出部34は、1つの単木について各高さの円の中心位置を求める。

【手続補正3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図22

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 2 2】

